

Ⅱ 特別連載Ⅱ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

神戸女子大学の活動報告



泉 妙子  
(神戸女子大学  
健康福祉学部  
社会福祉学科教授)

インドネシアから招へい  
医学部生ら日本型福祉等学ぶ

神戸女子大学は、科学技術振興機構(ＪＳＴ)「さくらサイエンスプログラム」の支援により、インドネシアの国立大学であるウダヤナ大学医学部看護学科3回生3名と教員1名を福祉研修プログラムに招へいした。ウダヤナ大学と本学とは2010年1月に学術交流協定を結び、学生研修交流や国際共同研究を継続している。

ウダヤナ大学の4名は、今年7月24日～8月2日の10日間、社会福祉学科において、「日本型福祉」の原理・原則を学んだのち兵庫県内の福祉施設、連携の近隣大学、京都・奈良の文化施設を巡るプログラムに参加した。兵庫県・京都市内の福祉現場においては、認知症ケア・地域包括ケアシステムなど福祉の専門性を確認できる研修や、震災を経験した神戸の世界に先駆けたりスクマネジメントの重要性を学ぶ機会もあり充実した10日間であったと評価を受けた。

【7月24日】ウダヤナ大学医学部看護学科のエミイ講師と学生の3名が、須磨キャンパスで多畑理事長、栗原学長、野口国際交流推進委員長を表敬訪問した。

学生らは、それぞれが抱負を述べ、プログラム期間中に学びたいことや挑戦したいことなどを伝え意欲的な笑顔を見せていた。本学文学部日本語日本文学科に留学しているウダヤナ大学日本語学科の学生も参加し、両大学間のさらなる交流が深まる機会となった。最後に、エミイ講師より栗原学長へ記念品が贈られ、大学からも各学生に文具などが贈呈された。

【7月25日】神戸女子大学ポトアイランドキャンパスで、「日本型福祉」を学んだ。学生らは、いま日本が抱えている「閉じこもり・晩婚化・少子高齢化・8050問題」等、

プログラムスケジュール	1日目	来日、神戸女子大学理事長&学長等表敬訪問
	2日目	オリエンテーション・データでみる社会福祉 社会福祉学科教員との質疑応答
	3日目	学内グループディスカッション
	4日目	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設訪問
	5日目	阪神淡路大地震記念「人と防災未来センター」 地域包括支援センター訪問
	6日目	京都華頂短期大学・清水寺・知恩院他 地域密着型施設訪問・漢字博物館他
	7日目	奈良県内見学、日本の歴史文化と芸術に触れる
	8日目	兵庫医科大学、神戸学院大学訪問
	9日目	日本の福祉の現状と課題を整理、レポート作成
	10日目	離日

日本の経済的発展と同時に生まれた家族の持つ機能の低下・地域社会の脆弱化に対する課題に対して大きな研究意欲を見せた。活発な質疑応答が印象的である。

【7月26日】日本の医療・福祉の中でも、社会保障・医療福祉・年金制度・介護保険の知識を学ぶことで、これから福祉が整備される自国に有益な知見を得たものと思われる。神戸女子大学の学生とともに日本の介護、「介護の暗黙知」についてディスカッションを行い、国内、アジア、世界の福祉について討議し、それぞれの専門分野からの視点で研究交流を行った。

また、「事例に基づく支援の実際」について指導を受けた。19歳から事故による脊髄損傷の後遺症により車いす生活を送るMさんから、障害の受容・リハビリ・自立した生活など具体的な話を聞き、生き抜くために必要な支援を整える大切さを学んだ。

【7月27日】特別養護老人ホーム愛の園・介護老人保健施設垂水すみれ苑を訪問した。生活支援・リハビリ施設を視察し、設備や介助の様子、看護師の役割などを見学した。ユニットで生活している人たちに「ベリダン」を披露すると、涙を流して喜んで、踊りの輪の中に加わったりと、高齢者の方たちにとっても喜ばれた。

【7月28日】兵庫県「人と防災未来センター」において、震災を経験した神戸の世界に

先駆けたリスクマネジメントの重要性を学んだ。インドネシアの地震事例として、子守歌によるリスクマネジメントが語り伝えられていることを知り大変驚いていた。学ぶ面白さに期待を膨らませ生き生きとした表情が確認できた。神戸中央区「港島ふれあいセンター」(地域包括支援センター)では、互助グループとして、皆で支えあう活動に参加し、楽しい時間を一緒に過ごした。今回の研修の中で一番印象的であったと2名の学生が答えている。頭の体操やゲームに参加し、地域コミュニティの大切さ、介護予防の意義を学ぶことができた。

【7月29日】 京都華頂短期大学において、在学生とともに演習授業に参加した。その後世界遺産である清水寺を訪問し、日本の文化・歴史に触れる時間を楽しんだ。また日本の暑さに驚いたが、京都の魅力・文化に圧倒され日本の歴史を感じる一日となった。

【7月31日】 ポートアイランド大学4大学連携先である、兵庫医科大学と神戸学院大学を訪問。兵庫医科大学では、助産師を目指すコースの学生と交流し、赤ちゃんの沐浴の実際を見学した。神戸学院大学では、昼食を神戸学院の学食で食べ、他の学生とキャンパスライフを楽しんだ。窓からは、実習船が両大西側に着岸している姿が見え、ポートランドナリからはポートターミナルにダイヤモンドプリンセスが入港し、港町神戸の雰囲気を楽しむことができた。4大学連携事業の説明を受け、今回の両大見学が可能になった背景を知ることができた。

今回の研修は、日本の福祉の現状と課題、それらに対する「介護の暗黙知と可視化」という日本型福祉の紹介である。研修背景として、インドネシア・バリ島にあるウダヤナ大



多畑理事長、栗原学長らと懇談する招へい学生ら(7月24日)



兵庫医科大で、赤ちゃんの沐浴を見学(7月31日)

インドネシアにおける大学教育にたずさわっている研究者の新しい研究フィールドの拡大と日本の研究者との教育連携・研究交流を継続する必要性を確認した。これらの機会は、必ずアジアの将来を担う若い学生に多大な影響を与えるものと予想できる。若し学生が日本の福祉を学ぶことによつて、将来の自国を背負う専門職として活躍できることを引き続き応援していきたい。

学の学生は、医学部をはじめ日本留学に人気がある。また、日本語学科の学生は、日本語を生かす観光やビジネス業界に職を得るため日本人以上に歴史や文化を学んでいる現状があった。2016年より「さくらサイエンスプログラム」において、福祉分野の学習を加え、ウダヤナ大学の教育の中に新しい研究フィールド(社会福祉・介護福祉・精神福祉)を紹介することが可能となった。さくらサイエンス事業の支援により、さらに学生らの間で日本に対する社会福祉分野にも興味関心が高まったと言える。

### ◎ 今後の展望

研修終了後、神戸女子大学では次なる国際交流のステージとして「国際健康福祉プログラムI」を実施した。また、神戸女子大学健康福祉学部7名(社会福祉学科6名・健康スポーツ栄養学科1名)は海外研修として、8月2日から12日までの10日間、ウダヤナ大学医学部主催夏季セミナーに参加した。さらに10月には、ウダヤナ大学医学部より2名の教授が国際医学会出席の為来日し特別講義が実施された。

少子高齢社会を迎えている日本にとって、福祉の充実には避けて通れない課題であり、本研修のテーマである介護に対する「暗黙知」の存在と「可視化」の重要性と実践は研究が進められる分野である。日本が失った家族機能や地域で支えあうコミュニティは、インドゥー教徒であるバリの人々の中に「暗黙知」として存在し、生活の中では福祉の心が深く根付き、ノーマライゼーションの概念を知らなくても支え合う人と人との絆が確認できる。バリの人々に根づく家族機能や地域力を失わないために、それらの意味や価値を正しく継承できる専門性が求められていると云える。

インドネシアにおける大学教育にたずさわっている研究者の新しい研究フィールドの拡大と日本の研究者との教育連携・研究交流を継続する必要性を確認した。